



はんだ山の風

小児科のご紹介



シリーズ最先端医療



病気 ここが知りたい



腫瘍センターだより



Contents

P.2 小児科のご紹介 小児科学講座 教授/小児科長 緒方 勤

P.3 シリーズ最先端医療 Vol.17 「大腸カプセル内視鏡」 光学医療診療部 副部長 大澤 恵

P.4 病気 ここが知りたい Vol.16 「難治性脊椎脊髄疾患の治療特に成人脊柱変形と脊髄内腫瘍」 整形外科科学講座 教授/整形外科長 松山 幸弘

P.7 腫瘍センターだより 「胃癌腹膜転移について」 腫瘍センター 副センター長/化学療法部 副部長 太田 学

P.8 外来受診予約制のご案内 医事課



浜松医科大学
開学40周年

病院の理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を養成する。

基本方針

- 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
- 社会・地域医療への貢献
- 良質な医療人の育成
- 高度な医療の追求
- 健全な病院運営の確立

小児科のご紹介

小児科学講座 教授／小児科長 緒方 勤



小児も未来と小児科の
発展をめざして

小児科は、新生児から成人年齢までの年齢の患者さんを対象として、小児内科系疾患の全てを網羅する診療科です。この中から、いくつかの疾患グループについて概要を述べたいと思います。

小児医療において重要なものとして高度集中医療があげられます。この分野で大きく発展したのは、新生児医療(NICU)です。現在9床のNICUは常に満床状態であり、地域の周産期医療に大きく貢献しています。また、新生児専門医が増加し(県内最多)、後進の教育の場としても機能しています。近い将来、主要関連病院にもNICUを設置し、地域新生児医療に貢献したいと考えています。また、小児高度集中医療救急(PICU)の体制整備も進めております。

先天性・難治性疾患は、従来から小児科が扱う中心的疾患です。浜松医大では、血液・腫瘍、循環器、免疫・アレルギー、遺伝・内分泌、神経、さらに小児外科疾患など、多岐に亘る疾患群の診療を行い、また、多数の分野の専門医研修施設として認定されております。関連病院や地域の医師を密接に連携しながら、小児先天性・難治性疾患診療の充実を図りたいと考えております。

そして、近年の子どもを取り巻く環境の変化により急増してきたいくつかの疾患があります。その代表は環境化学物質が関連するアレルギー疾患



小児科外来フロア キッズルーム

や性分化疾患です。アレルギー疾患に対しては proactive療法、急速減感作療法などを行い、その活動はメディアでも取り上げられています。性分化疾患については診療のみならず研究成果としても結実しております。このような小児保健(child health)分野は、今後ますます重要性を増してくると思われます。

小児科では、救急医療も重要な課題です。これについては、救急ホットラインを設置し、開業ドクターからの紹介を受けやすくする努力をしております。また、休日・夜間医療については、医師会の方々との連携をより強固にするよう努力する所存です。

最後に、小児科では専門臨床研修や研究活動も重視しております。年間20編以上の英文論文をだしており、また、多くの若手医師が国内外の高度専門病院・研究所において研鑽を積んでおります。これらの活動は、長期的に良質の小児医療の提供という形で浜松医大および関連病院の活動に貢献すると確信しております。

どうぞ、浜松医科大学小児科をご支援くださいます様、お願い申し上げます。



小児科外来フロア 受付／診察室



大腸カプセル内視鏡

光学医療診療部 副部長 大澤 恵



内視鏡検査は消化管疾患の診療には欠かすことができないツールとなっています。その中で最も進化した検査機器とあって良い大腸カプセル内視鏡が、本年1月より国内でも承認され保険適応検査となりました。当院では県内初の導入を行いましたのでご紹介します。

大腸癌は男性の部位別癌死亡率の第3位、女性では第1位であり、早期発見は国民的課題です。従来の大腸内視鏡検査ではスコープ挿入による痛みや恐怖感、恥ずかしさなどの精神的苦痛も存在すると言われ、検診受診率が低いのが現状でした。大腸カプセル内視鏡は写真に示した大きさ31×11mmのカプセルを、薬を飲むのと同じように少量の水で飲みこむと、消化管をカプセルが自然に流れる間に画像を撮影します。従来の大腸内視鏡検査と同様に下剤を服用して腸管内を洗浄しておくことが必要ですが、カプセルが体内に入っている感覚は全くありません。撮影した画像は、体表に取り付けた電極から体外のレコーダーに録画され後日、コンピューター上で読影します。さらに検査中のリアルタイムの画像をレコーダーに

ある小さな画面で見ること
も可能です。

この大腸カプセルは極めてハイテクです。カプセルが動く速度に合わせて、なんと1秒間に4枚～35枚の超高速で枚数を調節して撮影できる新機能を有し、カメラは両端についているため、視野は344°をカバーできます。大腸ポリープの発見感度は90%前後と報告されており、通常の大腸内視鏡と遜色ないと言われています。今回認められた保険適応の条件は、通常の大腸内視鏡で深部挿入が困難であった患者さんや、腹部手術の既往などがあり通常内視鏡が挿入困難と予想される場合となっています。苦痛が強く大腸内視鏡が行いにくい患者さんへの新たな検査の選択肢が増えたことは好ましいことだと思います。

今後、検診での利用も含めて適応拡大され、大腸癌の早期発見に寄与することが期待されています。大腸カプセル検査を希望される患者さんがありましたらぜひご相談ください。



A:大腸カプセル

B:ワークステーション

C:データレコーダ

大腸カプセル内視鏡検査

連絡窓口：地域連携室 TEL.053-435-2637

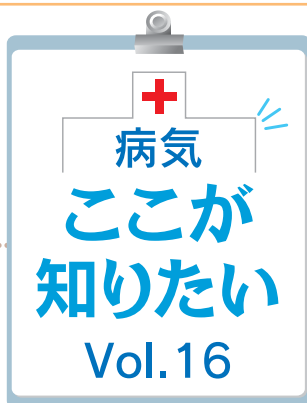
検査費用：手技料1550点(15,500円)+カプセル本体(特定医療材料費)85,500円

※3割負担の患者さんで、3万円強の検査となります。

お知らせ

外来棟 3F の光学医療診療部(内視鏡室)は、内視鏡検査数の増加に対応するため、今年度新たに内視鏡検査室を増設し、この10月より4つ目の検査室が稼働開始となりました。検査の待ち時間の短縮をはかるとともに、最新の内視鏡機器での精密検査を提供してまいります。





難治性脊椎脊髄疾患の治療 特に成人 脊柱変形と脊髄髄内腫瘍

整形外科学講座 教授／整形外科長
松山 幸弘



浜松医大整形外科学教室における2013年脊椎脊髄外科での実績であるが、成人脊柱変形の矯正手術と脊髄腫瘍、特に脊髄髄内腫瘍が多い事がわかる(図1)。双方とも手術の難易度が高く、全国でも手術を行っている施設は少ない。我々の施設ではこの難治性脊椎脊髄疾患をリアルタイムの術中ナビゲーションを可能とする移動型CT(O-arm)(図2)と術中に脊髄神経麻痺を予防するための32チャンネル脊髄神経モニタリングシステム(図3)を駆使して取り

組んでいる。全国から多くの患者が紹介されてきている。

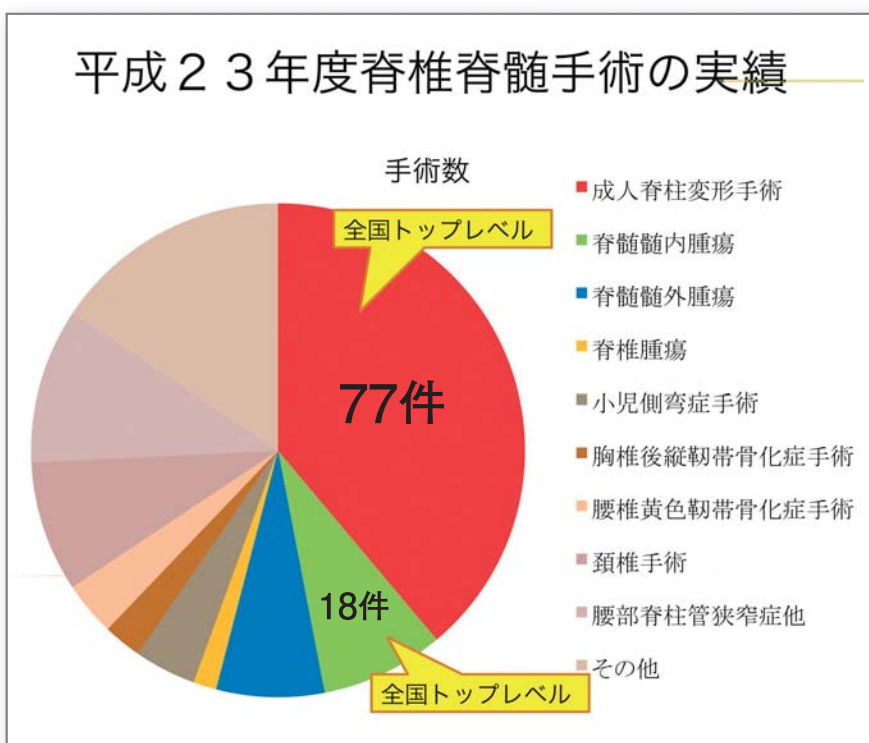


図1

高度な先進的手術支援システム

O-arm
術中モバイルCT装置
(日本では10施設のみ)

ナビゲーションシステム
(より正確なスクリューの刺入)

図2

より安全に手術を行うシステム

32チャンネル脊髄モニタリングシステム
(手術操作による脊髄へのダメージをリアルタイムに察知)

CMAP波形 体性感覚誘発電位 持続筋電図波形

術野カメラからのライブ画像

図3

65歳以上が1/4以上の高齢化社会となった現在、骨粗鬆性椎体圧潰を伴った脊柱後弯症で日常生活に支障を来している患者は増加している。また遅発性圧潰により下肢麻痺や高度の後弯変形のみならず、さらに側弯変形をきたしている症例もある。このような症例は変形による腰痛、腰痛性間歇跛行そして後弯変形によって胃部圧迫による逆流性食道炎（GERD）が大きな問題となっている。（図4-1、2）またこのような患者は高齢にもかかわらず、生命を救うためにも手術的加療が不可欠となる症例も多い。しかし、手術加療を必要とするような重度脊柱変形は椎体骨折のどのタイプになるのか、また椎体骨折はなくても手術適応となる30°以上の腰椎変性後側弯（de novo type）が進行する場合があります、どのような患者になるのか、そのリスクファクターは明らかではなくまた予防法も確立されていない。



図4-1

我々の横断的調査では、脊柱の冠状面の側弯変形ではなく、矢状面アライメントとバランスのくずれた脊柱変形が最もQOL障害をおこしていることが判明した。このような矢状面バランスの崩れ



図4-2

た脊柱変形は骨粗鬆症に伴った椎体骨折後に生じてくることは明白であるが、このような骨折が無いde novoの腰椎変性後側弯変形でも生じる症例もある。矢状面バランスを失った患者の症状は、長時間の立位保持が困難、5-10分の歩行での腰痛（腰痛性の間歇跛行）、乳母車歩行でないと移動できない、GERD症状、そしてなによりも高齢化社会での介護を受けねば生活がなりたないことへの不安を訴える。（図4-3）



図4-3

こういった高齢者脊柱変形症は、症状が重篤なだけにロコモにおいて重大な存在である。図5-1から図5-3に示すように、現在は高齢者であっても手術によって背骨をまっすぐにする事が可能となってきた。このように脊柱変形矯正は正面像ではなく、側面像、すなわち脊柱矢状面アライメントとバランスを整える事が重要であり、特に腰椎前弯（下位腰椎であるL4/L5、L5/S1の前弯）の獲得と骨盤前傾の獲得が必須と考えている。すでに200症例以上の成人脊柱変形矯正を行ってきたが、手術をする事によって至適矢状面アライメント獲得し、その結果として獲得できたQOLに患者の満足度は高い。しかし脊柱変形の矯正がよく、至適な脊柱矢状面アライメントが得られたとしても、脊髄神経麻痺が生じては本末転倒となる。この脊髄神経麻痺の予防も図3に示した32チャンネルの脊髄モニタリングを駆使して予防し、安全確実な手術の遂行に努めている。

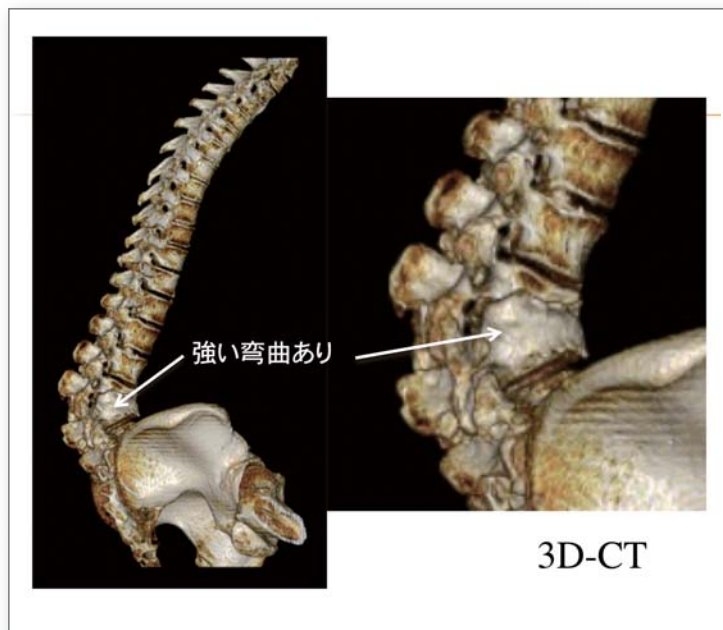


図5-2



図5-1



図5-3

このように私どもの教室は、患者にとってはもちろんの事、若手整形外科医師にとっても魅力的で活動力のある医局を目指しております。



腫瘍センター「胃癌腹膜転移について」 だより

腫瘍センター 副センター長／化学療法部 副部長 太田 学

胃癌は未だにがんの死因の男性では第2位、女性でも第3位であり、2013年では48,632人が胃癌で亡くなっています。特に胃癌の腹膜転移は再発の中で、最も頻度が高く、治療も非常に困難です。その病態は胃癌が胃壁を貫き、胃癌細胞がこぼれて腹壁や腸管膜で増殖した状態です。さらに進行すると癌性腹膜炎となり腸閉塞や腹水貯留、水腎症を来し、全身状態が悪化します。しかしその治療は難渋することが多く、標準治療はありません。進行再発胃癌の化学療法に準じた治療を行うことが一般的ですが、直接腹膜転移へ治療を行う訳ではありません。その中で東京大学医学部附属病院、石神医師らが中心となって行っているパクリタキセルの腹腔内投与・経静脈投与+S-1併用療法は第II相臨床試験で1年生存77%、奏効率71%、腹水消失率68%とすばらしい結果を示しました。現在第III相試験の登録が終わり、新たにS-1/

オキサリプラチンにパクリタキセル腹腔内投与併用療法の第II相試験が行われています。当院も静岡県内で唯一先進医療として同試験に参加しております。



また腹膜播種の早期での診断はCTなどの画像技術が進んだ現在でも困難であり、以前は試験開腹を行って行っていました。当院第二外科上部消化管外科では審査腹腔鏡を積極的に施行し診断を行っております。審査腹腔鏡は全身麻酔下に臍部に2cm切開をし、内視鏡で腹腔内を観察する方法です。同時に腹腔内の洗浄細胞診を同時に行い、診断精度を高めております。

腹膜播種は依然予後の厳しい病態ですが、当院では診断・治療に積極的に取り組み、予後とQOLの向上に努めております。



腹壁に広がった腹膜転移巣



小腸壁に腹膜転移が広がり小腸は硬化狭窄をきたしている。



腹膜播種を来しやすいスキルス胃癌内視鏡像。通常の胃癌と違い潰瘍形成せず見つかりにくくまた症状も遅れがちである。



腹膜播種を来しやすいスキルス胃癌造影像。胃体上部は硬化し、膨らみが消失し変形を来している。

外来受診予約制のご案内

当院（特定機能病院）は、地域の基幹病院として、高度かつ専門的な医療を行っています。また、厚生労働省は、質の高い医療の提供を目的に、医療機関の役割分担を進めています。

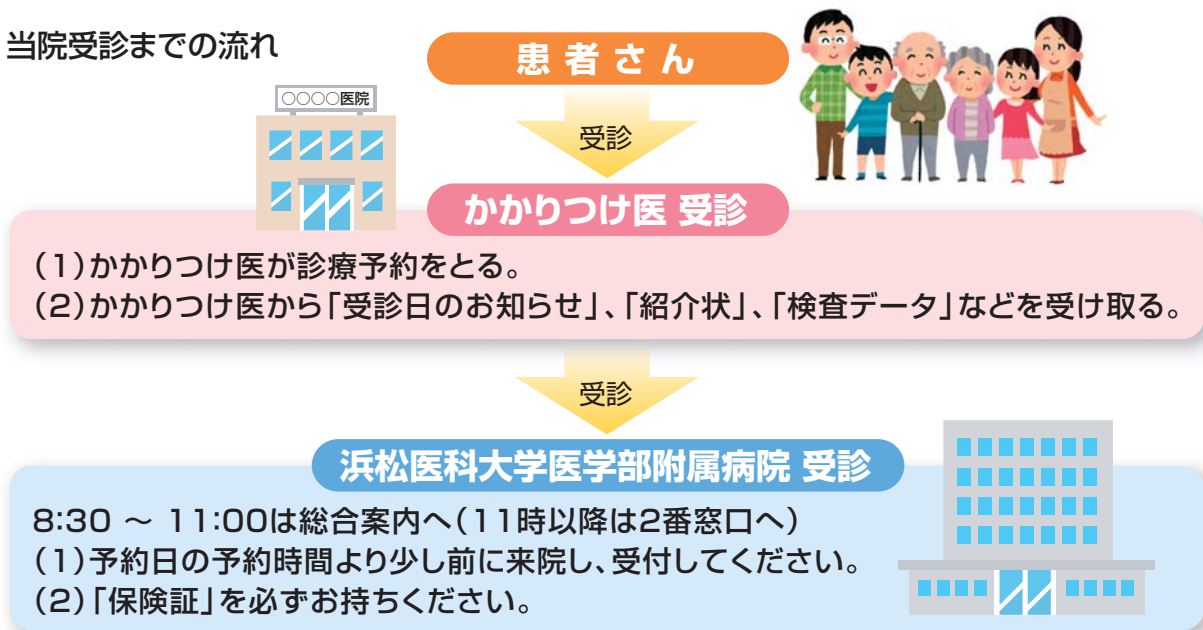
当院におきましても、このような状況を踏まえ、病病連携、病診連携をさらに進めるため、外来受診予約制を導入しております。

初めて当院を受診される場合、以前に当院を受診したことはあるが初めての診療科を受診される又は期間があいている場合には、他の医療機関からの紹介状と受診予約が必要です。

● 予約制を実施している診療科

消化器内科	腎臓内科	神経内科	内分泌・代謝内科	呼吸器内科
肝臓内科	循環器内科	血液内科	免疫・リウマチ内科	一般内科
臨床薬理内科	呼吸器外科	乳腺外科	上部消化管外科	下部消化管外科
肝・胆・膵外科	血管外科	小児科	小児外科	脳神経外科
整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	放射線科
産科婦人科(不妊外来、腹腔鏡外来を除く。)				麻酔科蘇生科

● 当院受診までの流れ



● 予約制を実施していない診療科

精神科神経科	心臓血管外科	一般外科	歯科口腔外科	形成外科
産科婦人科(不妊外来、腹腔鏡外来)		耳鼻咽喉科(めまい専門外来、鼻副鼻腔外来を除く)		

※紹介状・予約がなくても受診できます。ただし、紹介状をお持ちでない方は、初診時保険外併用療養費として、3,240円をご負担いただきます。
※精神科神経科では、他の医療機関で治療を受けている場合には、紹介状が必要です。

お問い合わせ先 浜松医科大学 医事課 外来事務室 TEL:053-435-2605 平日8時30分~17時まで



病院広報 **はんだ山の風** 第17号 平成26年10月発行

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会 〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053(435)2111(代表) FAX.053(435)2153(医事課) Hpアドレス／<http://www.hama-med.ac.jp/>

外来診療日一覧

H26.10.1 現在

受付時間 午前 8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後 0時30分～2時 専門外来

○：午前
△：午後
◎：午前・午後
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
内科 受付電話 435-2632												
一般内科	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
第一内科	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	腎臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆		
第二内科	神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆		◆		
	肝臓内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		
第三内科	禁煙外来	◆				◆						
	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		
	血液内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆		要問い合わせ
循環器内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
ペースメーカー外来												予約のみ、要問い合わせ
ピロリ菌外来	◆											午後のみ
精神科神経科 受付電話 435-2635 ※他医療機関で治療している場合は「紹介状」が必要												
	初診・再診	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
専門外来	児童思春期外来							○				
	摂食障害専門外来								△			
	摂食障害デイケア							◎		◎	◎	
小児科 受付電話 435-2638												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆		
専門外来	内分泌・遺伝		◆					◆				
	内分泌		◆			◆		◆			◆	
	心臓				◆	◆				◆	◆	
	血液									◆	◆	初診は随時電話で
	免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
	神経		◆	◆	◆			◆		◆		
	腎臓				◆					◆		第2、4週のみ
	新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
	乳児検診	◆					◆					
	在宅医療									◆		
CCS外来										◆	第4週のみ	
小児外科 受付電話 435-2638												
	初診・再診		◆		◆			◆		◆		
外科 受付電話 435-2641												
第一外科	呼吸器外科			◆						◆		◆
	一般外科（内視鏡）	○		○		○	○	○		○		○
	乳腺外科	◆	◆			◆	◆	◆			◆	
心臓血管外科	○		○		○	○	○		○		◆	要紹介状
外科 受付電話 435-2642												
第二外科	上部消化管外科			◆						◆		
	下部消化管外科	◆					◆					
	肝・胆・膵外科					◆					◆	
	血管外科		◆					◆				
緩和ケア外来		◆			◆		◆			◆		
脳神経外科 受付電話 435-2644												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647												
専門外来	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
	教授外来（脊椎）	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
	骨粗鬆症				◆	◆				◆	◆	
	リウマチ			◆	◆					◆	◆	
	手・末梢神経			◆						◆		
	脊椎	◆					◆					
	腫瘍			◆						◆		
	股関節					◆						◆
	肩関節					◆						◆
	膝関節					◆						◆
小児整形	◆					◆						

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来	◆		◆			◆		◆			
	光線過敏症外来		◆					◆				
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	化学療法スキンケア外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆		◆			◆	◆	◆		
専門外来	腎移植外来			◆				◆				第2週のみ
	排尿障害外来		◆		◆			◆		◆		第1、3、4、5週のみ
	不妊症外来					◆					◆	
		◆					◆					第1、3、4、5週のみ
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
専門外来	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来										◆	第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
専門外来	腫瘍外来	○					○					
	耳外来				○					○		
	めまい外来			◆								
	耳鳴外来		○					○				
	難聴外来・人工内耳外来		○					○				
	睡眠時無呼吸・いびき外来					○					○	
	顔面神経外来					○					○	
	鼻副鼻腔・アレルギー外来				◆						◆	第2、4週のみ
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	※産科 初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※は、平成26年11月から予約制実施予定です。
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	※産科外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	腹腔鏡外来		◆					◆				
	光療法外来									◆		
	母親学級								◆			
女性漢方外来		◆						◆			第1、2、4週のみ	
ART室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	アンギオ外来		◆		◆			◆		◆		
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
							◆					
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	）専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話に問い合わせください
専門外来	唇顎口蓋裂外来			○					○			
	インプラント外来			○					○			
	顎補綴			○					○			
	矯正歯科					○					○	

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。